

2020年度
世 界 史
(問 題)

〈R02143416〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	☒ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い
マークを消す時	☐ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

	万	千	百	十	一
(例) 3825番⇒		3	8	2	5

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

グラックス兄弟による改革が失敗に終わった後、ローマは「内乱の1世紀」と呼ばれる混乱した時代を迎えた。有力者たちは元老院に基盤をおく **B** 派と民会などを拠点とする平民派とに分かれ、対立抗争が繰り返された。同盟市戦争や奴隷の反乱が起りローマ社会は混乱したが、とりわけ前73年から前71年に勃発したスパルタクスの反乱はローマの支配者層を大きく動揺させた。この騒乱は **D** の剣闘士養成所から奴隷たちが脱走したことで始まり、一時は大軍となる大反乱となったが、**E** らにより鎮圧された。

『対比列伝』（『英雄伝』）を記したローマ帝政期の哲学者・著述家によれば、**E** がスパルタクスの反乱を鎮圧する指揮官の役目を果たした。しかしながら、闘いから逃れ落ちた奴隷の一群を滅ぼした **G** の名声も高める結果となった。その後、カエサルは元老院に抵抗するため、前60年に **E**、**G** と密約を結び政治を行った。前58年から前51年には、カエサルはガリアに遠征し、アレシアの戦いで **I** を指導者として抗戦する軍を制圧し、この地域をおおむね征服した。ガリア遠征中に **E** がパルティア遠征で戦死すると、元老院に近づいた **G** がカエサルと対立した。前48年のファルサロスの戦いでカエサルは **G** に勝利し、前44年には終身の **J** に就任し独裁政治を始めた。カエサルは救貧、カルタゴなどへの植民事業や **K** の採用など諸改革を行い、民衆にも広く人気を得ていた。だが、元老院を無視して権力を一身に集めたため、共和政を擁護する ブルートゥスらによって暗殺され、ローマは再び混乱に陥ることになった。

問A 下線部Aについて、この時期およびその前後の時代の記述として誤っているものはどれか。

1. オクタウィアヌスは前27年に元老院からアウグストゥスの称号を与えられた。
2. 前91年から前88年にイタリア半島の同盟市は、ローマ市民権を求めて反乱を起こしたが、最終的にマリウスが鎮圧した。
3. オクタウィアヌスは前31年のアクティウムの海戦で、アントニウス・クレオパトラの連合軍を撃破した。
4. グラックス兄弟の兄ティベリウスは前133年に護民官に選ばれ、自作農創設による軍の再建を企てたが、元老院の保守派の反対にあって暗殺された。

問B **B** にはいる語句はどれか。

1. 新貴族
2. 騎士
3. ポプラレス
4. 閥族

問C 下線部Cについて、この反乱の統率者スパルタクスの出身地域はどこと伝えられているか。

1. ガリア
2. トラキア
3. サムニウム
4. ブリタニア

問D **D** にはいる都市の名前はどれか。

1. アッピア
2. ローマ
3. カプア
4. ナポリ

問E **E** について、この人物はつぎのうちどれか。

1. ポンペイウス
2. スラ
3. マリウス
4. クラッスス

問F 下線部Fについて、この人物が晩年に神官を務めた場所はどこか。

1. アテネ
2. アレクサンドリア
3. デルフォイ
4. オリンピア

問G **G** について、この人物はつぎのうちどれか。

1. レピドゥス
2. ポンペイウス
3. クラッスス
4. アントニウス

問H 下線部Hに関連する内容として、正しい記述はどれか。

1. ルグドゥヌムは、現在はフランスの首都となっている都市である。
2. マッシリアは、前600年頃にローマ人によって植民された都市である。
3. ブルディガラは、現在はワインの生産地として世界的に知られている都市である。
4. トロサは、現在は自動車産業の町として世界的に知られている都市である。

問I について、この人物はつぎのうちどれか。

1. ウェルギリウス
2. ウェルキングゲトリクス
3. ホラティウス
4. レピドゥス

問J にはいる語句はどれか。

1. コンスル
2. プリンケプス
3. ケンソル
4. ディクタトル

問K にはいる語句はどれか。

1. ギリシア暦
2. 太陰太陽暦
3. 太陽暦
4. ヒジュラ暦

問L 下線部Lについて、この人物を登場人物として、イギリスの著名な劇作家が悲劇を1599年頃にした。この劇作家の作品であるものを一つ選べ。

1. 『カンタベリ物語』
2. 『マクベス』
3. 『エドワード2世』
4. 『錬金術師』

Ⅱ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

官僚登用試験である科挙が開始されたのは、Aの治世であった。唐代における科挙は、試験による官僚登用を定着させたが、中央政府の高官の地位をほぼ独占していた「門閥貴族」の勢力は依然として強大であった。安史の乱を乗り越え、門閥貴族は政局に大きな影響を与え続けたが、唐の滅亡とともに、その多くの家系は史料から姿を消す。この門閥貴族の衰亡の原因については、従来様々に議論されてきたが、近年では、彼らが政治の中心であった長安とDにあまりにも集中して住み、結果的に唐末の反乱で殲滅されたとの説も提唱されている。その後、五代十国でも、科挙を行った王朝が存在したが、科挙の歴史上、転換点となったのが北宋の建国であった。「文治主義」と評される北宋初期の諸皇帝の政策において、官僚登用の最も主要な経路として確立され、3年に1回、州試→省試→Gという3段階制が設けられた。経済力のある科挙の受験者層は門閥貴族にかわる新たな社会的有力者層となり、科挙官僚を出せば、徭役が免除されるなどの特権を得た。こうして科挙を突破して官僚となった人々は自らを門閥貴族とは異なる、新たな社会の指導者層とみなし、大胆な改革を実行してゆく。その代表例である王安石の主導した新法をめぐる、政界は賛成・反対派で二分され、その対立は北宋滅亡後、南宋にまで影響を与えた。

問A Aについて、当てはまる人物を一つ選べ。

1. 隋の煬帝 2. 唐の太宗 3. 隋の文帝 4. 唐の玄宗

問B 下線部Bについて、正しい説明を一つ選べ。

1. 永嘉の乱の後、「五胡」の支配を拒否して、五胡十六国には官僚として仕える者は全くいなかった。
2. 九品中正制度において、中央政府から派遣される中正官を無視して、高位の官職を手に入れた。
3. その勢力を削ぐため、府兵制では主要な徴兵対象とされた。
4. 高級官僚を輩出し、官人永業田の世襲を行った。

問C 下線部Cに関連して、正しいものを一つ選べ。

1. 安禄山の娘は皇帝の妃となったが、それを妬む者の讒言に危機感をおぼえた安禄山は、この反乱を起こした。
2. 史思明は安禄山を暗殺して、自ら大燕皇帝と称した。
3. この反乱の鎮圧に協力したウイグルは、その勢いで長年の仇敵であった東突厥を併合した。
4. 楊炎は、安史の乱鎮圧後の財政再建に貢献した。

問D Dについて、黄河流域に位置し、西晋などの王朝が首都とした、長安とならんで重要であった都市を一つ選べ。

1. 鎬京 2. 汴京 3. 洛陽 4. 咸陽

問E 下線部Eについて、黄巢とともに唐代末期の反乱を率いた人物を一人選べ。

1. 王僧弁 2. 王則 3. 王仙芝 4. 王直

問F 下線部Fについて、五代十国時代に「燕雲十六州」を契丹に割譲した王朝を一つ選べ。

1. 後唐 2. 後梁 3. 後晋 4. 北漢

問G Gに入る言葉を一つ選べ。

1. 郷試 2. 会試 3. 覆試 4. 殿試

問H 下線部Hについて、こうした社会的有力者層の主な母体となった富農・官人階層をあらわす言葉を一つ選べ。

1. 形勢戸 2. 佃戸 3. 民戸 4. 里長戸

問 I 下線部 I について、こうした特権を得て、一般人民とは異なる戸籍に登録された家の呼び名を一つ選べ。

1. 主戸 2. 官戸 3. 甲首 4. 里長

問 J 下線部 J について、次の中で王安石の主導した「新法」ではないものを一つ選べ。

1. 保馬法 2. 保甲法 3. 公田法 4. 募役法

問 K 下線部 K につき、王安石と対立し、王安石の辞職後に新法を次々と撤廃した人物を一人選べ。

1. 司馬炎 2. 司馬遷 3. 司馬貞 4. 司馬光

問 L 下線部 L について、その前後の情勢に関する説明として正しいものを一つ選べ。

1. 金の圧迫を受けた北宋は、遼と密約を結んだが、のちにこれを裏切って遼を滅ぼした。
2. 秦檜は反対派を抑え込み、金との和議を成立させた。
3. 南方中国を保持した南宋は、自らを兄、金を弟とする盟約を結んだ。
4. 北宋皇帝の高宗は、金軍に捕らわれて北方に連行された。

Ⅲ 次の文章を読み、問A～Lに答えよ。解答はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークせよ。

世界史を考える上でキーワードと言うべきものにヒトの「移動」(migration)がある。その動機は戦争、飢餓、気候変動などさまざまであるが、それが大規模な移動になった場合、当然先住民との摩擦、あつれきを生むことになる。

古代を代表する移動現象には、ケルト人の移動がある。彼らは^Aインド＝ヨーロッパ語族に属し、ほぼヨーロッパ全体を居住地域としていたが、^B共和政ローマ期に一部が属州になり、また^Cゲルマン人の圧迫を受け、「陸のケルト」は各地に定住することになった。現在ケルト文化の強い影響を受けているとされる^Dスコットランド、^Eアイルランドなど「島のケルト」と古代ケルト人の関係は不明のことも多いが、彼らの妖精神話、美術、キリスト教信仰などにはケルト的な共通性が認められる。スコットランド、アイルランドはいずれも、しばしばイングランドと紛争を起こし、その影響は現在にまで及んでいる。

移動を繰り返した民族として著名なものは^Fヘブライ人であろう。もと遊牧民であった彼らは民族移動を重ねたが、新バビロニアに征服され、のちローマの領土となったが民族は四散し、統一国家成立は1948年の^Gイスラエル国建国まで待たねばならなかった。しかし、^Hイスラエル国と近隣の^I中東諸国との間には深刻な^J対立関係が続いている。

近現代におけるヒトの移動で代表的なのは、植民地であろう。本来古代ギリシア、ローマ期の *colonia* とは移住地のことであった。しかし15世紀の「地理上の発見」以降、^Iスペイン、^Jイギリス、^Kオランダなど列強は、国内の余剰人口のはけ口だけでなく、植民地を政治的に従属させるとともに、宗主国にとって有利な市場としていったのである。しかし、^Lらにより、植民地時代の負の遺産を植民地化された地域の人々の視点から捉え直す、ポスト・コロニアリズム研究が進められている。

問A 下線部Aに関して、インド＝ヨーロッパ語族に含まれる現代語はどれか。

1. ハンガリー語 2. エストニア語 3. フィンランド語 4. ロシア語

問B 下線部Bに関して、共和政ローマ期に起こった出来事はどれか。

1. カルケドン公会議の開催 2. エフェソス公会議の開催
3. 十二表法の制定 4. ミラノ勅令の発布

問C 下線部Cに関して、ゲルマン人の活動で、正しいものはどれか。

1. アングロ＝サクソン人は、イングランドに「七王国」を建てた。
2. 4世紀、ブルグンド人が南イタリアにブルグンド王国を建国した。
3. フランク人は、ガリア北部に進出したが、5世紀末にクローヴィスによって服属された。
4. ザクセン人は、南ドイツに勢力を誇ったが、7世紀にキリスト教改宗を拒否した。

問D 下線部Dに関連して、正しいものはどれか。

1. スコットランド王ジェームズ6世は、イングランド王ジェームズ1世を兼ね、自由主義的な立憲王制を理想とした。
2. 1707年、ジョージ1世の手によってイングランドとスコットランドは合同し、大ブリテン王国となった。
3. スコットランド生まれのアダム＝スミスは、『諸国民の富』などの著作で、古典派経済学を拓いた。
4. 16世紀、スコットランド女王メアリ＝スチュアートは、スコットランドのプロテスタント化を進めた。

問E 下線部Eに関連して、正しいものはどれか。

1. 1649年、クロムウェルはアイルランド征服を企図したが、失敗に終わった。
2. 1801年、イギリスはアイルランドを併合したが、アイルランド議会はダブリンに残された。
3. 1840年代のジャガイモ飢饉で、アイルランドでは100万人以上の餓死者がでた。
4. グラッドストーン首相は保守党と提携することで、アイルランド自治法を成立させた。

問F 下線部Fに関連して、古代ヘブライ人の歴史について、誤っているものはどれか。

1. ヘブライ人は前1500年頃、パレスチナに定住した。
2. 前13世紀頃、指導者モーセのもと、ヘブライ人はパレスチナを離れ、エジプトに定住した。
3. 前10世紀頃、ダヴィデ王、ソロモン王のもと繁栄した。
4. ソロモン王の死後、王国はイスラエル王国と、ユダ王国に分裂した。

問G 下線部Gに関して、イスラエル建国にいたるまでの中東に関する事件のうち、年代順で古いものから2番目に当たるのはどれか。

1. パレスチナが、イギリスの委任統治領となる。
2. バルフォア宣言が出される。
3. 国際連合総会が、パレスチナ分割案を決議する。
4. サイクス・ピコ協定が締結される。

問H 下線部Hに関して、現代の中東問題について正しいものはどれか。

1. 1979年のイラン革命は、アメリカ合衆国の介入により失敗に終わった。
2. 1973年、第4次中東戦争が起こると、石油輸出国機構（OPEC）は原油価格を上げ、第二次石油危機が起こった。
3. 2001年、イスラーム急進派による、ニューヨーク、ワシントンでの同時多発テロについて、オバマ大統領は直ちに対テロ戦争を宣言した。
4. 1980年代、パレスチナの人々は、武力にまさるイスラエル軍に対して投石などで抵抗の意思を示すインティファダを展開した。

問I 下線部Iに関連して、メキシコのスペインからの独立運動の先駆者は誰か。

1. オイギンス
2. トゥサン＝ルヴェルチュール
3. イダルゴ
4. サン＝マルティン

問J 下線部Jに関連して、イギリスの旧植民地、香港について誤っているものはどれか。

1. 2019年、「逃亡者条例」をめぐる、香港では民主化デモが起こった。
2. 1944年、日本は香港を占領した。
3. 1984年、イギリスと中国との間で香港の中国返還について合意がなされた。
4. 香港返還後も、「一国二制度」のもとで、香港では現在も資本主義制度が容認されている。

問K 下線部Kに関して、オランダの対外的な事件で古いものから順に3番目に当たるものはどれか。

1. アチェ戦争が起こり、ゲリラ戦による長期戦となったが、オランダはこれを鎮圧した。
2. ジャワ戦争が起こったが、オランダは反乱を鎮圧した。
3. 3次にわたるイギリス＝オランダ（英蘭）戦争が起こった。
4. 日本軍が、オランダ領東インドのジャワ島、スマトラ島などを占領し、石油資源を確保した。

問L L に当てはまる人名は誰か。

1. サイード
2. キッシンジャー
3. ケインズ
4. デューイ

Ⅳ 次の文章を読み、空欄 1 ～ 13 については、記述解答用紙の所定欄に適切な語句を記入せよ。また、下線部14に関しては、とくにE Uがそれらの移動の自由を域内で認めることを基本理念としてきているが、そのことと2015年以降にイギリスで起きたE Uとの関係に関する出来事との関連性について記述解答用紙の所定欄に100字以内で説明しなさい。なお、句読点・算用数字も1字とする。

広く社会に散在する資本を集積し、その資本をもとに事業を行うことを可能にする仕組みとしての株式会社の起源は、1602年に 1 で設立された東インド会社にあるといわれる。同社は、設立当初、出資者らによる意思決定機関としての株主総会をもたないなど、取締役や国家の影響力が強い形態であった。しかし、その後、フランスにおいて、財務總監の 2 がその名を冠した 2 主義ともよばれる 3 政策の一環で、株主総会等を擁する若干民主的な組織として東インド会社を再建するなど、株式会社にかかる制度は国境を越えてヨーロッパ大陸全体に広がっていった。

アメリカでも、独立戦争後、多くの州で株式会社制度に関する立法が行われ、株式会社が設立された。19世紀後半には、1882年に形成され、ロックフェラーによって率いられていた 4 トラストに代表される独占的な企業集団を形成するものがあらわれた。そうした状況に対し、連邦議会は、1890年に 5 を制定して独占やその企てに対して対抗しようとしたが、1888年にはニュージャージー州が会社による他の会社の株式の取得・保有を認め、企業集団の形成における持株会社形態の利用に道を開いたことを皮切りに、そのほかの州でも自州に会社の設立や企業集団を誘致すべく、会社や企業集団に友好的な立法を行う動きがみられていった。結果として、アメリカでは、その後も株式会社の隆盛は続いたが、1928年にパリで15カ国が調印し、国際紛争の解決手段として戦争を放棄することを宣言した 6 をアメリカ側で推進したニコラス＝バトラーは、1911年に行ったスピーチの中で、「有限責任制を有する株式会社は、現代における最も偉大な1つの発見であり…蒸気（機関）や電気さえ…その重要性という点では株式会社に及ばない」と述べた。

他方で、株式会社は、剰余金（利益）の配当や株主総会における議決権といった構成員としての様々な諸権利を株式に証券化し、それを発行・流通させるところ、ときにそうしたプロセスの中で投機その他の多くの問題を生じさせ、国家や国際的なレベルで金融・経済を混乱させるきっかけにもなってきた。

イギリスでは1720年に政府が発行する 7 の引受けを行っていた南海会社を中心としていわゆる南海泡沫事件が起こり、翌年に 8 党から首相に就任した 9 が経済の混乱の收拾にあたった。アメリカでも、1920年代に株式や投資信託への投資ブームが起きた後、1929年にウォール街における株価の暴落が起き、それに続いて世界恐慌が起きた。その翌年には、アメリカは、国内産業を保護する観点から農産物を中心に多くの輸入品の関税を引き上げる 10 と呼ばれる法律を制定したが、各国が報復措置をとったことなどにより、同国のみならず各国の経済をより一層悪化させた。

以上のようなことがありつつも、株式会社は第二次世界大戦以降も多くの国々で利用され、その中からは複数の国々にまたがって子会社・関連会社、資産を持つ 11 企業も多くみられるようになってきている。ただ、人・物・資本・サービスの移動が活発となり、グローバル化が進んでいる今日、そうした 11 企業は、とくに製造業分野において、人件費や生産コストの低い地域や、外国為替の関係において有利な地域へ事業を移転させることも多く、それが都市や国の単位で起こる「産業の 12 」と呼ばれる現象の原因の1つにもなっている。また、とくに先進国では、金融部門に過剰に資金が集まり、短期的な利益の獲得を求めてその資金が世界を駆け巡った結果、投資銀行業務などを行っていた 13 の破綻をも引き起こした2008年の国際金融危機に結びつくなど、株式会社が金融市場および経済の混乱の直接・間接の原因となった例がたびたびみられた。さらに、現代の株式会社においては、経営者に対し、株価に連動し、一般的には株価が上昇した場合にそれに応じた報酬が付与されることも多く、それが成長企業などで多額の報酬を手にした一部の経営者層とそれ以外の従業員層や一般市民との間に経済格差を生じさせていることから、株式会社は、1つの国および国際的な両面で富める者とそうでない者を生み出す原因の1つにもなっている。

株式会社とそれを支える制度は、多くの国々で雇用を生み、金融・経済の発展に貢献をしてきたことも確かである。しかし、ときに金融・経済さらには広く社会に対して混乱をもたらす存在にもなっており、まだまだ課題も多い。

〔以 下 余 白〕

